研究・調査報告書

分類番号		報告書番号	担当
A-83C		21-092	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門　三浦克之

題名（原題／訳）

Alcohol Intake and Endogenous Hormones in Pre- and Postmenopausal Women: Findings from the UK Biobank

閉経前、閉経後女性における飲酒と内因性ホルモンの関係　UK バイオバンクでの検討

執筆者

Tin Tin S, Key TJ, Reeves GK.

掲載誌

Cancer Epidemiol Biomarkers Prev. 2021 Dec;30(12):2294-2301. doi: 10.1158/1055-9965.EPI-21-0789.

キーワード	PMID
飲酒　女性　内因性ホルモン	34607837

要　旨

目的：飲酒はホルモン変化を介して女性の乳がんリスクに影響する可能性が示唆されているが、結論に至っていないため、飲酒と testosterone (T), sex hormone binding globulin (SHBG), insulin-like growth factor-1(IGF-1), estradiol (E2)との関連を検討した。

方法：UK バイオバンクに 2006-2010 年に登録された女性; 40-69 歳, 閉経前 30,557 人および閉経後 134,029 人を対象に、多変量線形回帰分析を用いて一日のエタノール摂取 10g 上昇あたりの上記の血清ホルモン濃度の変化量および 95%信頼区間(CI)を算出した。年齢、人種、BMI、喫煙習慣、採血時間、社会経済指標を共変量とした。

結果：T は一日のエタノール摂取 10g 上昇あたり閉経前 3.9%上昇(95%CI;3.3-4.5%)、閉経後 2.3%上昇(95%CI;1.8-2.7%)した($P_{heterogeneity}$<0.0001)。SHBG は閉経前 0.7%上昇(95%CI;0.2-1.1%)、閉経後 2.4%低下(95%CI;2.2-2.6%)し($P_{heterogeneity}$<0.0001)、IGF は閉経前 1.9%低下(95%CI;1.7-2.1%)、閉経後 0.8%低下(95%CI;0.6-0.9%)した($P_{heterogeneity}$<0.0001)。E2 は黄体初期 1.9%上昇(95%CI;0.2-3.6%)、中後期 2.4%上昇(95%CI;0.7-4.2%)したが、月経周期全体では統計的に有意な関連を認めなかった。

結論：飲酒は内因性ホルモンと統計的に有意な中等度の関連を示し、その関連性は閉経前と閉経後で異なった。